

刊夕 日一十月九



定価 一部金五円 月金五拾銭 郵政五割
 廣告料 五割十二字 行金五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社



長恨

小倉 美智雄

作 創

「唄は出来ねえ」
 「をかきな野郎だ、兄貴が親切に言つて居るんぢやねえか、をとなくして居ると上せやがつて、嫌なら嫌で勝手にしろ、馬鹿野郎ッ」

自分の足が良作の腹にバツと飛んだ。
 「ブーム」
 良作は腹を押へた、
 「馬鹿な事は止せ」
 一同は制した。
 「しらばくれるない、幾何

神前結婚
 が一般に
 行はれる

「ノット」
 ようになつたのは明治三十年高木兼寛男が媒酌で日比谷大神宮に擧式してからである

でも勝手にうなれ」
 それから一同は又唄よ、踊りよで一しきり賑はつた
 一同が唄つて、踊つて呑み疲れて座が白けた頃良作は蒼くなつて苦しんで居た
 「良作、だからあまり我を

張るもんぢやねえってんだ。今後も氣を付けなよ、おい誰か醫者を呼んで来い」

風も凧ぎ、波も静んで土方殺しの雨もすつかり晴れ上つて、陽は海の上を赤々と等しく照らして居る。土工運も工場場に蜘蛛の子を散らした様に汗に汚れて働いて居る、其の中に人氣のある變人だつた良作の姿のない事は一同にとつて一抹の淋しさと物足りなさがあつた。

良作は心臓痙攣の病名で名もない漁村に、見守る人とてもなく寂しく死んで、日の照る丘の眞新しい土盛の中に静に眠つて居るのだつた。身の一切を語つた事のない良作だつたから其の死を生家に知らせる術すらなかつた。

「醫者の診断は自由だよ、監督は監督の立場から捜査をしなければいけない。早速解剖をして見やう、君、先に行つて其の準備をして呉れ給へ」
 駐在巡査は取つて返した
 刑事は四方に飛んだ。
 其の結果は腹部強打による腸の破裂が死の原因である事が判明した。其の儘暗から暗へ葬られるかと思は

「健康で暮らせ」と父の慈愛の言葉に「一人前になつてきつと歸ります」と契つた良作、父への約束をも果たさず太平洋の潮煙る漁村に淋しく死んで行つたのだ

其の死の刹那迄父に盡し得なかつたせめても「健康でありたい」の氣持は念頭を去らなかつた事だらうとして「一人前になりたい」氣持が強く強く、死が迫れば迫る程心臓に針でも刺さる様に胸を打つた事だらう。それは最後の肉親への愛着が強ければ強い丈彼の心に充満だつたのに違ひはないのだ。

彼の望んだ一人前になりも得ず、父の土産の筈だつた一人前の希望を抱いた儘十五年の社會の荒波との闘ひを犠牲にして、太平洋の怒濤を耳にしながら死んで行つた良作は、只それが未來永劫への長い長い恨みであつたらう。



靈効散 胃腸藥 御試し下さい

秋は天高く馬肥ると申しますね。否馬ばかりではありません、人間も夏の炎暑から開放なつて食欲の増す時季でありますから、随つて健康な人は肥えて參ります。然るに不幸にして胃腸の弱い人は、此の自然の恩恵に浴す事出来ず益々弱つて行きます。左様な不幸な人を救ふには靈効散と言ふ靈藥があることを御存知ですか。三年五年の永い慢性胃腸病の全快した人は澤山あります。胃腸病、心臓病、痔等を痛む人は明日と言はず今日直ぐ御試下さい。御望の方には御試用として見本を阿康藥局で差上ります。御遠慮なく御來局下さい。他店では見本上げません。是非左記へお出下さい。
 平町古鍛冶町縣社ノ下
 阿康藥局
 電話 四四番
 振替口座三〇〇五番

9.5 m.m
PONY
 CINE-CAMERA
 ¥ 18.00
 PROJECTOR
 ¥ 17.00
 NISHIMURAY-YAKUHO
 TAIRA-2. TEL 3

市原醫院
 平町田町 (電一四番)
 内科 小兒科 市原卯太郎
 外科 梅毒・淋病 市原三三男
 入院隨時

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
 平町南町一六 (電話一七〇番)

かまぼこ 製造
 ねづね 製造
 平町一丁目
 お惣菜用 さつま揚 吉原揚
不味實
 電話一四一番

味覺の秋を樂しみ得る
 香氣の高い 松茸
 料理を始めました
 出前 迅速 錦水
 電話四五四

磐城共濟病院 (福島縣平町) (電話六四一番)
 院長 石山謙郎 (電話六四一番)
 副院長 五藤尚輔 (電話三七〇番)
 内科 醫學博士 佐藤雄二
 小兒科 醫學博士 藤田久藏
 婦人科 醫學博士 大町久藏
 耳鼻咽喉科 醫學士 前澤正
 皮膚泌尿器病科 醫學士 石山謙郎 (電話二七二番)
 花柳病科 醫學士 石山謙郎
 藥物療科 醫學士 石山謙郎
 藥局 局長 鈴木孝平
 事務局長 鈴木孝平
 ◎病室完備 入院隨意

政友派の四候補

昨夕決定を見る

田子健吉氏が出馬断念

直ちに政戦を開始

四名公認と決定した石城政友部會は既記の如く小野晋平氏に勇退を懇請中の處田子健吉氏が愛黨心の發露から局面の圓滿收拾を圖つて退讓の意を洩らした爲め同部會の最高幹部は昨日午前十時から大村屋旅館に熟議を練り兩氏を招致して更ら

に懇談を重ね茲に田子氏の退讓に伴つて小野氏推薦の意圖を固め直ちに左記四名の公認を發表候補者過剰の爲めの陣痛の悩みは解消された

蓮沼龍輔 小野晋平 赤津庄兵衛 關内正一

大安吉日に

民政派出馬

萩原氏受諾か

三名の顔揃ふ

石城民政部會にては草野三郎、坂本龜太郎兩氏の出馬決意と共に残る一名を吉田寅之輔氏に當て極力同氏に向つて徳澤中の處同氏は是れを固辭して受けず結局萩原義雄氏が名乗りを擧ぐる情勢となり十三日の大安吉日を選んで立候補を届出る模様である

信用組合出席

庶民金庫からも来る二十二日午前十時郡山信用組合樓上に開催される縣下六市街

セメント

社債發行

四倉町磐城セメント會社で

は今回三井信託の引受々託に依り社債三百萬圓を發行することに決定條件左記の如くである

- 一、發行額三百萬圓(總額七百萬圓の中第一回發行分)
- 一、利率年四分三厘
- 一、發行價格 額面百圓につき百圓
- 一、償還方法 七ヶ年發行後毎年額面二十萬以上抽籤又は買入れ償還

今度こそ

間違ひない

古川改修工事

陳情委員が齎らす吉報

去る九日青沼町長並に縣議三名町議四名の一行は新川改修實現陳情のため内務、大藏兩省へ出頭したのは既報したが同一行は十日歸平して左の如く経過を語つた

過般技術官が出張詳細に園に蟲聲に感傷を誘はれるが今年もまた「月々に月見る月は此の月の月」と古歌に知られた十五夜の満月の月」を涼風の高天に出現させるのだ。中秋明月は往時から文、畫人の妙筆に幾多の傑作を生み我々を讚嘆させ、詩人はセンチナリズムを誕生させてゐる

秋刀魚漁に

一番乗りを競ふ

本縣其他が岩手に抗議

味覺の王座を占むる秋刀魚は愈々來る二十日に解禁されるので稀有の夏季鯉漁不振に腐つてゐた石城海岸地方漁業家は豊漁を豫想して振立立つてゐるが油の乗りきつた秋刀魚の味は鮪や鯉のそれと比すべくもないそれこそ御祝儀相場をねらふ第一船の争奪が始まるので石城地方海岸漁業家を中心とし本縣及び茨城、宮城千葉の四縣では協定して十九日午前十時釜石、宮古、

氣仙沼、女川、石巻の五港から一齊に出漁することになつたが岩手縣岩手丸が十五日漁業調査に出帆するのをきつかけとして十八日同縣大型漁船が大舉出漁する旨報導があつたので協定期日十九日以前の秋刀魚漁業成績は多大の利害關係の止むなされる本縣並に前記三縣聯合で岩手縣に嚴重抗議することになつた

水田不作地に

小麥栽培獎勵

草野、大浦指定さる

草野、大浦兩村は縣から特殊地帯小麥指導地設置村に指定されたがこれは水田不作地、桑園、跡地、高冷地、積の距離があるが本年は卅五萬キロ位で減多にない近距離で従つて非常に大きく見える譯で本年中で

一番地球に接近するのを見る筈、然し明日は満月とは云ふが本當に丸くなるのは十三日の午前五時十八分頃でつまり十三日朝月の沈む十五分前後が最もカ、ことになるとは測候所の話である

多收の獲得

石城地方は昨日今日の小雨はあるが荒日も先づこの分

害虫の被害も多少懸念

反面害虫その他の害も多少懸念されてゐるが從來の飯米飢饉の農村にもつてここの多收獲の愛善陸稻のニュースが發表されたので参考に掲載する、土浦在都和村小山崎農家組合では本年

試験的に京都綾部町から愛善陸稻の種子を取り寄せ栽培したところ試作にも拘らず非常な出来栄で分蘗も從來の品種から見るとんで較べものにならな好成績、一穗の結粒数は最も少ないもので三百八、九十多いもので六百二、三十粒もあり

反當り

十四俵も取れると云ふ超豊作の收獲確實で收獲も他品種より四十日以上も早いこと一考の必要があると思はれる

平第二校の陸上運動會 平第二の秋季運動會は來月四日同校々庭で開催される爲め來る廿七日豫行演習を行ふと

藤沼醫院

平町・紺屋町 電話五〇七番

山内醫院

平町・田町 電話六九一番

明晩は 十五夜

好ましい慣習から恍惚の境地に陶酔 來る年も「中秋の名月の觀賞は——好ましい我々日本人の古事慣習であり、机上に盛られ十五夜の團子に老も若きも一様に流睡した幼時を思ひ出して明闇の庭

三萬圓拐帯

小名濱町で捕る

京阪でバラ撒き豪遊 株屋を逃げた小店員

十日夕方小名濱町を徘徊する舉動不審の青年を駐在所員が取押へた處同人は同町上明神町生れ鈴木勝義(三〇)にて東京市日本橋區堀越町遠藤株式店の店員として働いて居る間に酒色の味を覚え昨年八月末主家から現金一萬二千圓、株券一萬八千圓、合計三萬圓を拐帯して先づ横濱に飛び更らに京阪地方を遊び暮らして拐帯金を湯水の如く費消した事自白したが他にも餘罪ある模様で平署は目下警視廳に照

平商校が 特種授業

平商業學校は此程三年生以上で情操運動等の方面に重きを置いた左の如き課外授業を行ふことになつた

- 商業美術 音楽 園藝
- 歌句 詩(英語)習字 運動 射擊

尙各學年の右授業時間割當は三年一週三時間、四五年は一週七時間である

舊師を招き

子弟等の語りひ

十六日の平第一校同窓會

平第一小學校の同窓會は來る十六日に開催されるが當日出席の同校舊職員中平町及び近郊在住者左の如く舊師を圍む美しい場面が幾重にも展開する筈で盛會を豫想される

- 鈴木光吉 堤光顯 宮内 喜忠 小野寛美 小山祐 五郎 大河原金之助 小野金太郎 伊東芳松 鈴

- 木宗雄 大平喜一郎 大平善吉 芦間直正 佐藤芳松 萩桑茂 古關新吾 三森猪之助 愛川ハツ 猪形濱治 中野テヲ 芳賀時治 野木静 石山晃 男 和田二郎 渡邊武 長瀬耕平 渡邊善吉 佐川久吉 荻生田智雄 佐藤熊太郎 小野海 大内秀治郎 橋本元吉 野木

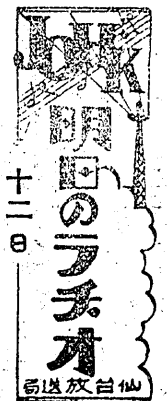
- 繁彌 水野谷徳太郎 中野目廣治 村山二郎 吉田ミサオ 村上テヲ 中野監治 志賀遠平 米本

明日の二百十日

先づ不安はない

小名濱測候所の観測

三、四日続いた晴天と蒸し暑さでほととした地方民に昨日からの小雨に続き多少風の出た来たことは二百二十日が明日である丈に既報の天気豫報で安堵はあるものの、何となく不安なことはいなめない、然しこれは颱風が朝鮮南部を迂回して日本海に出裏日本の陸地に沿ふて東方に進んで居り本日正午過ぎから今晚にかけて秋田縣に入り同縣を抜けて太平洋に出て了ふ筈で二百二十日は當地方には不安は絶対ない(小名濱測候所談)



今晚の部
今晩北東の風驟雨模様明日北西の風天氣よし

- 今晩の部
二(二)開會由三郎
後七三〇 選舉肅正と國民の覺悟 後藤内務大臣
後八〇〇 近江の夕大津市縣公會堂中繼 一獨唱志賀の歌永井八重子
二但路滋賀縣瀨田町玉津村小松村連中 三名所案
富茂 八巻陽太郎 坂内伊貞 齊藤利彦

富岡町議

二回目言渡

夫々罰金刑

富岡町々會議員總選舉に選舉違反の二回目に檢舉された左記三名に今十一日平區より左の如く略式罰金を言渡された

- △双葉郡上岡村大字本岡字岡内左官猪狩三太は候補者大竹四郎氏への投票請托を富岡町松澤駒二外一名に依頼して略式罰金二十圓
△双葉郡龍田村大字波倉字腰巻五七農末永勤(五九)は候補者遠藤誠一氏の運動の爲富岡町渡邊長右衛門外三名へ戸別訪問及び

- 内賤ヶ岳古戰場物語林源内石山寺源氏の間縁起宮原敬瑞三井寺辨慶鐘由來宮川かつ 四大津繪節近江八景姫佐子他京都都元延玉葉他
後九〇〇 長歌 舌出し 三番叟坂田仙八他
後九三〇 時報 ニュー

夜祭りの

歸途に汚さる

嫁入り後十日の女石城郡玉川村岡小名農江尻某の妻トメ(三〇)假名は去月廿四日夜夜祭りから五六人の女と共に歸宅の途中暗闇から現れた男に追はれて逃げ遅れ凌辱されたが嫁入り後十日にして此の出来事とて外間を恥じて居た事其筋の耳に入り平署が活動を開始して本日小名濱築港事務所の雇某(三〇)に嫌疑がか、同署に召喚取調中

逃走内妻

水戸で迷ふ

湯本町鮮魚商鈴木七郎内妻山田さだ(二〇)は九日午後十一時頃水戸驛待合室で舉

- ス 氣象通報 番組豫告
明日の部
前六三〇 基礎ドイッ語 講座 武内大造
前七〇〇 朝の修養「禪話十二講」關精拙
前八〇〇 婦人の時間「月の宴」池田龜鑑
後〇〇 五獨唱と室内樂 奥田良三 鈴木クワラテ
後一〇〇 選舉肅正大講 演會(大阪中之島公會堂中繼)
後六〇〇 子供の時間

住吉神社祭禮

村住吉鎮座郷社住吉神社の例祭は十日執行古式の流鏝馬があり觀衆多く參詣人で賑つた由

課題優秀賞状

平第一小學校では昨日児童の夏休課題成績展を開き優秀者三二四名に賞状を授與した

基督教婦人會

基督教婦人會は十四日午後一時三十分から日本基督教會で開かれるが會費は十錢である

平裁判たより

△双葉郡久之濱町大字久之濱字一三三漁業遠藤松吉

お話「月の傳説」藤澤衛彦
後六二五 講演「乃木大將夫妻を偲ぶ」山田英夫
後七三〇 講演「我工業原料供給地としての北支那」齊藤良衛
後八〇〇 中秋名月の夕「柳原の名月賞況」平壤牡丹臺下大同江畔中繼2尺八と獨唱 上田芳愷
太田綾子3朗讀「一村の九月」徳富愛子「圓光の智者」トラスベットの牛鴨
北原白秋 ラヂオ風景
「名月に寄す」歌澤寅由喜他

又も悪事

起訴猶豫中に

平町久保町生れ石城郡好間村堅坑下居住鈴木直行(三〇)は窃盜起訴猶豫中の處平町尼子自動車部の助手として雇はれ去る八日其の運轉手の現金十一圓在中の墓口を窃取逃走昨夜南町を徘徊中逮捕さる

井坂醫院

平町 田町 電話五五九番



明治太平記

(作) 寺島樺史
(編) 寺島樺史

第二百二十三回

浪々の身 (十五)

「おふくしやん、ニッポンの天女、妖姫、淫女……けがれた聖女……マリアさま……」

この耳打ちが幾分死體のはずのこの淫女マリアの心臓を訪れたのか、くちびるに花片のやうなかしこ冷たいくちびるにかすかに微笑みのがのぼつた。

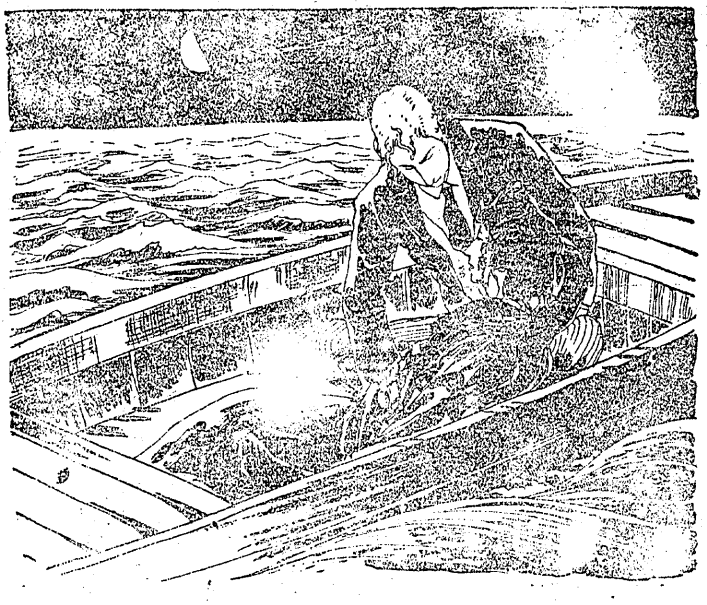
「おふく、わたしの聖女、おふくしやん、わたしがわかりますか」

冷たい右の手はかたしくもいくたびかかすかに動くのみだつた。ウエルズのど首を狙ふ民族の悲痛な最後の念願……

ウエルズはそれをくちびるの代辨とみてその冷熱の手を握りしめた。

「生きてくださいやい、きつと、きつとあなたはよみがへります、ニッポンスメの意氣と情熱で、きつと」
ウエルズは狂はしくおふくの死體に接吻した。
其の時、おふくの良順の半面に血を浴びた雪白の顔に落日のやうに新らしく血のかよふらしい氣配が……

「ウ、エ、ル、ズ……」
かすかにさう呼んでゐるらしい音がどの奥から聞えるやうだつた。
ウエルズは狂はしく



「おふく、おふくしやん、あなた……」
「え、あたしのために……何です、はやく云つてくだしやい」
「あたしの、た、ために……バ、パークスを、こ、ころして……」
「おう……パークスを……それはあなたのためばかりではない、このわたしのためでもある。よろしい、きつとパークスを殺してみせます」
ウエルズは月に挑戦するかのやうに拳を高くあげて死體のおふくはさらに細々

「あなた……」
らしやめんの雪の肌から體温を探し求めた。
だが、おふくはいくらひいき眼にみても死體だつた冷たい骸だが土色に變つたくちびるがらいや、のどの奥からやはりかすかに音がする。
「あ、あたしの、た、ため

と
「バ、パークスを、こ、ころして……」
「よろしい、きつと殺してやる、……それほどあなたはパークスを憎悪し敵視してをつたのか……それと知つたならわたくし、あなたをこんな目に……」
ウエルズは天空に戦ひを

挑んでゐた拳で悔みの涙を拂つた。
「それから……」
おふくはまた消え入るやうな聲でのどの奥からいつた。
「おう、まだ何か……」
「あたしをこ、このまゝ海へ投げて……」
「え？」
「こ、このまゝ、女のまゝ、死なしてください」
それだけいつてふたゝびがつくりとなつてしまつた
「おふく、おふくしやん」

くるほしくウエルズはおふくの肩を抱きよせた。
「あなたを死なしてなるものか……しつかりしてくださいやい」
「……い、い、え、このまゝ、女のまゝに……」
「女です。あなたは處女です。ニッポンの優しいムスメさんです。だから美しく生きかへってくださいやい」
「あたし、もう死んでいきます。ウエルズさん、さよなら……」

自轉車は左記

有名車を御撰擇下さい
世界的ニ進出セル

- ◎宮田ノ自轉車 夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
- ◎ゼブラノ自轉車 實用經濟車トシテ好評アル
- ◎マーツ號自轉車

◎マーツ號の好評をねたみ羊頭狗肉の策を用ひ偽物を販賣し商權を侵害なしつゝある者あり法的解決により御得意様の御了解を得ん

宮田代理店
ゼブラ代理店
マーツ代理店

エビスヤ商店

電六六四

吸入用酸素純度99%

度量モノサシ
ハカリ ス
器量計
體温計
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

木村外科醫院

外柳病科 専門

自炊入院の便あり

電話三〇九番
平町六丁目橋

池坊華道會員募集

一ヶ年卒業 花型構成ノ原則ヲ解放
初心者ヲ標準トシテ華道ニ關スル理論及技術ノ大要ヲ確實ニ習得セシム

科目 華道應用盛花、投入、生花、立華
教授場 性 源 寺 平町長橋町午前九時
時期 毎週金曜 平出張事務所 ヨリ正午マデ
夜間部アリ

講師 池坊華道會長 先崎翠峰先生
申込其他 御用ノ際ハ電話五二六番
(出張事務所 味岡子之松氏方) 御利用下さい
◎尚御希望ニ應ジ出張教授モ致シマス

主催 池坊華道會

旋風的大流行の

新スポーツ競技玩具

ボクシングボール

澤山参りました

場所を選ばずどんな人にも出来てキケンのない面白いゲームです

普級型 金十五錢
高級型 金三十錢

平驛前

特約店 いづみや玩具店